

2024年10月4日に発表された米国の9月の雇用統計では、非農業部門雇用者数が前月比25.4万人増(市場予想15万人増)、失業率が4.1%(市場予想4.2%)、平均時給が前年同月比4%増(市場予想3.8%増)となり、雇用者の増加数や賃金上昇率が市場予想を上回る良好な内容であったことなどから、米10年国債利回りは3.85%程度から3.97%程度に上昇し、米ドル(対円)は146円台から148円台へと円安米ドル高になりました。

ただし、この動きは最新(2024年9月時点)の米国のFRB(連邦準備制度理事会)のドットチャート*にはおおむね沿った内容だと考えています。市場が大きく動いたのは、もともと市場がFRBの示す以上に早いスピードで政策金利(FPLの誘導目標)の引き下げを予想していたからです。ドットチャートでは2024年11月に0.25%ポイント、12月も同様に0.25%ポイントの引き下げが示されていましたが、何かと景気後退(マイナス成長)の気分が盛り上がりやすい金融市

場は、11月も0.5%ポイントの引き下げなどを想定していた模様です。今回の雇用統計発表を契機に、市場はFRBの想定に近い予想に切り替えたようです。米国株が上昇した(金利高・米ドル高・株高)ことで、市場の動きは景気の見方の改善によるものと分かります。

今回の雇用統計の結果は、今後のFRBの金融政策に影響を与えないと予想します。2024年8月の雇用統計では景気後退懸念に振り回されたにもかかわらず、翌月(9月)の内容が良好となっただけで、インフレ懸念が再燃すると考えるのは早計であると考えます。次(10月)の雇用統計は、ハリケーンやストライキの影響で悪化するとの見方がありますが、為替や金利の見直しを変更する必要はなく、当社では、2025年9月に政策金利は3.75%、米ドル(対円)は137円程度になるとみています。

*米FOMC(連邦公開市場委員会)参加者による見通し

[米国の10年国債利回りの推移]
(2023年12月末～2024年10月4日)



[米ドル(対円)レートの推移]
(2023年12月末～2024年10月4日)



信頼できると判断した情報に基づき、日興アセットマネジメントが作成
※上記は過去のものであり、将来の運用成果を約束するものではありません。